

アフリカ農村における零細鉱業の役割

タンザニア国ゲイタ鉱山地域における零細鉱業の多面的機能性の考察

秋田大学 藍澤 淑雄

1 目的

この研究の目的は、タンザニア農村における零細鉱業の多面的な役割について考察することである。零細鉱業は小規模で労働集約的な貧困層による採鉱活動といわれ (Barry, 1996 など)、鉱物資源が豊富な開発途上国農村地域における重要な生計手段となっている。このため零細鉱業は農村の現金需要を充たす経済的手段として議論されることが多い。貧困農民は零細鉱業に生存維持のために従事している、あるいはその逆に収入拡大のためのビジネスの機会として従事しているといった見方が存在する (Hilson, 2009; 2016)。一方で最近では経済的な役割だけではなく、零細鉱業の社会的な役割についても議論されはじめている (Aizawa, 2016)。本研究では、零細鉱業は地域の多様な社会経済状況に基づいた多面的な役割を有するものであると捉えながら、アフリカ鉱山地域におけるその役割について検討する。

2 方法

本研究では、タンザニア農村地域のゲイタ金鉱山地域を対象とした。社会調査の実施に当たっては、まず層化抽出により調査サンプル収集採鉱区を設定した。サンプル収集採鉱区は、タンザニア国エネルギー・鉱業省のゲイタ鉱業地区事務所の情報をもとにして金の生産が多い地区とした。金の生産が確認できない採鉱区では零細鉱業活動が行われていない可能性が大きいためである。対象採鉱区においては事前に準備した質問票をもとに構造化・非構造化インタビューを行った。そのうえで、収集したデータを整理しノンパラメトリック法による分析を行った。

3 結果

分析の結果、タンザニアのゲイタ金鉱山地域における零細金鉱業は地域のニーズに基づいて多面的な役割を果たしていることがわかった。第一に、零細鉱業は生存維持のための手段と収入拡大のための手段として同時に機能していることがわかった。これらは二項対立的な立場として議論されることが多かったが、分析によりむしろ相互包括的であることが示唆された。第二に、零細鉱業はビジネスとして経済活動でもありながら同時に相互扶助的な社会的な活動でもあると認識されていることがわかった。この結果からも零細鉱業における経済的・社会的利益の相互包括性が示唆された。

4 結論

以上から、タンザニアのゲイタ金鉱山地域においては、零細鉱業は鉱山地域で多面的な役割を果たしていることが確認された。この結果は零細鉱業が地域に根差していることを示しており、地域経済だけでなく地域社会の一部として住民の生活の中に存在していることを示唆している。

文献

- Aizawa, Y. 2016. "Artisanal and Small-scale Mining as an Informal Safety Net: Evidence from Tanzania." *Journal of International Development*. Vol. 28. No.7. pp. 1029-1049.
- Barry M. (Ed.) (1996). *Regularizing Informal Mining: A Summary of the Proceedings of the International Roundtable on Artisanal Mining Organized by the World Bank, Washington, D. C., May 17-19, 1995*. Industry and Energy Department Occasional Paper No. 6.
- Hilson, G. 2016. "Farming, Small-scale Mining and Rural Livelihoods in Sub-Saharan Africa: A Critical Overview." *Extractive Industries and Society*. Vol. 3. No.2. pp. 547-563.
- Hilson, G. 2009. "Small-scale Mining, Poverty and Economic Development in Sub-Saharan Africa: An Overview." *Resources Policy*, Vol. 34. No.1-2. pp. 1-5.